

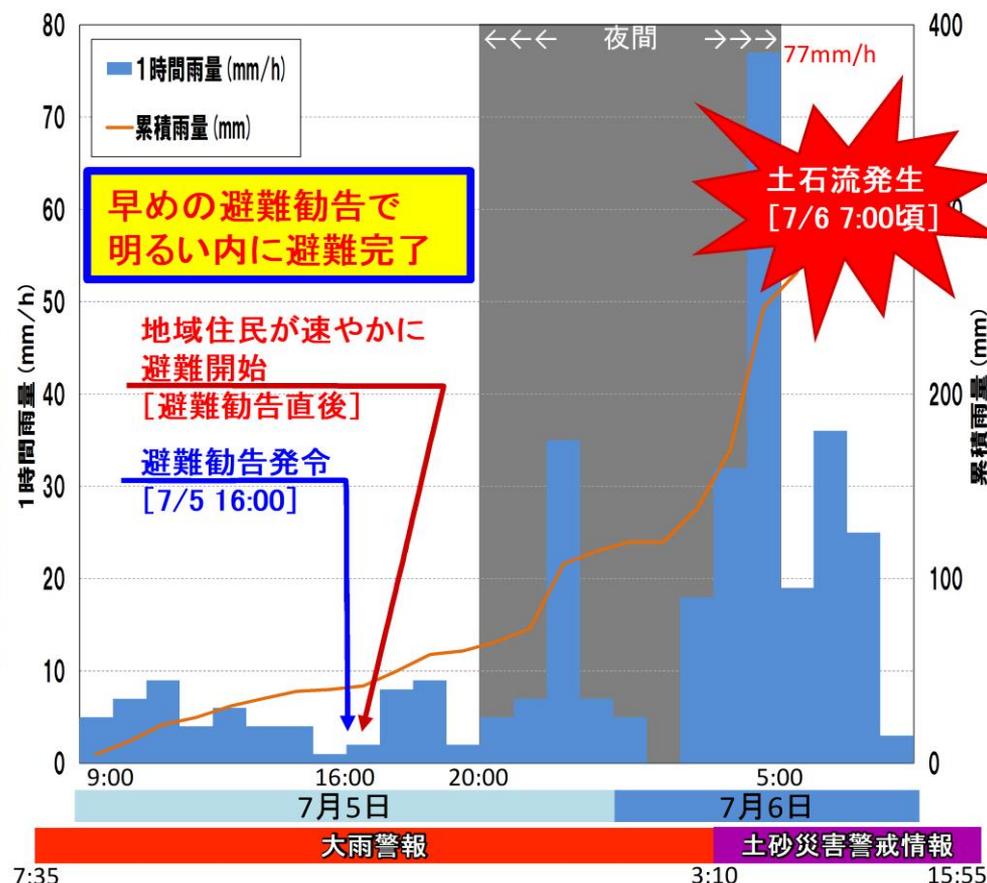
# 「自助」「共助」「公助」連携により難を逃れた事例(鹿児島県垂水市)

たるみずし

○鹿児島県垂水市新御堂新光寺地区で、土石流により土砂災害警戒区域内に位置する人家2戸及び倉庫1棟が全壊。全壊した人家の居住者を含む2名の住民が事前に避難しており、人的被害を免れた。

## 【災害の経緯: 令和2年7月豪雨】

- 5日(日) 7:35 大雨警報発表
- 10:30 垂水市災害警戒本部設置
- 16:00 避難勧告発令 → 地域住民が避難
- 6日(月) 3:10 土砂災害警戒情報発令
- 7時頃 土石流が発生し人家2戸及び倉庫1棟が全壊
- 15:55 土砂災害警戒情報解除



- ◆避難勧告発令の経緯・・・【公助】垂水市は、鹿児島地方气象台から夜間に大雨が降る可能性が高いとの情報を参考に、夜を迎える前、土砂災害警戒情報の発表を待たずに避難勧告を発令した。
- ◆避難までの経緯・・・【自助】全壊した人家に住む男性は、避難勧告発令を契機として避難し、人的被害を免れた。
- ◆地元代表者の声・・・【共助】「日頃から住民同士の声掛けにより、降雨が続いたら出水が起こり得る地域であり、降雨が続く危険を感じる状況になったら早めに避難しようという認識を住民間で共有していたことが、当日の避難行動に繋がった。」